

河北新報

2021年10月8日(金)
に掲載されました。

ペット

森のいぬねこ病院で暮らしていた猫、トラニーが先日、亡くなりました。ひょんなことから当院で暮らすようになつたので、年齢不詳です。健康状態からかなりの高齢だったと思われます。そんなトラニーは、1年以上前から悪性のがんを患い、闘病生活を続けていました。

もしかしたら「動物病院で暮らす猫だったら、最高の医療を受けられるからいいね」と思われるかもしれません。もちろん治せる病気は全員で

③ 免疫高める代替療法

治療しますが、今回の悪性のがんは、治療が非常に難しいがんでした。

がんの治療は「三大治療」と呼ばれる外科療法(手術)、化学療法(抗がん剤)、放射線療法が主流です。しかし、トラニーの場合は悪性のがんが2カ所に発生してしまい、

治療しますが、今回の悪性のがんは、治療が非常に難しいがんでした。

代替療法は、三大療法のように学術的な報告がなく、その対応はさまざまです。ただ、

の効果については、私が知る限り獣医師の中でも賛否両論があつて、動物病院によつてそ

て、少しでもペットの快適な生活の手助けができるので

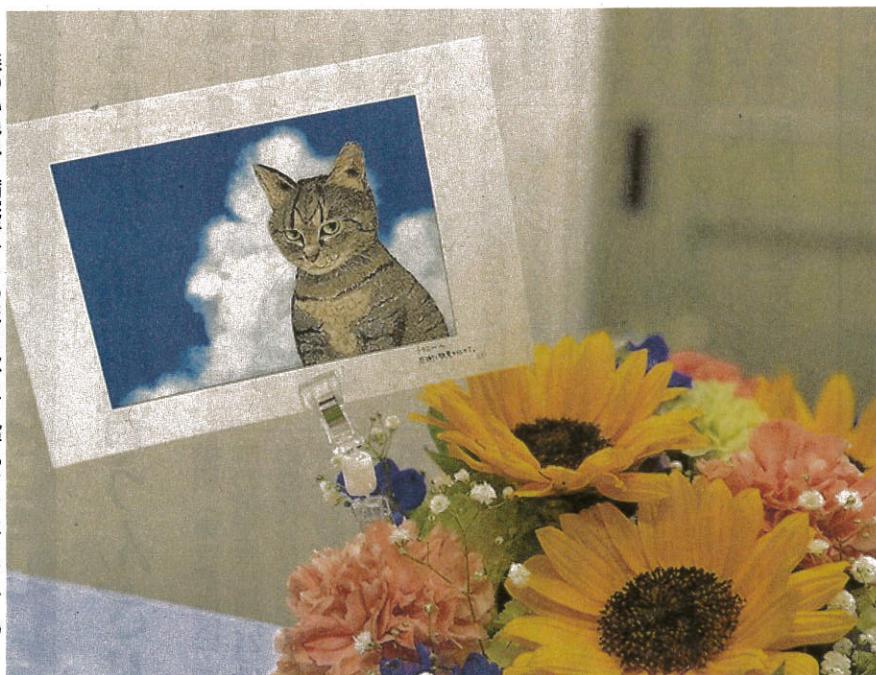
法を取り入れることによつて、個人の経験では、三大療法に加えて、あるいは三大療法が適応できないとき、代替療法を取り入れることによつて、少しでもペットの快適な生活の手助けができるので

がんの進行を緩やかに

あつまむ・動物たち

森のヘルスラボ通信

西原 克明



森のいぬねこ病院で、そのほとんどを見守つてきたトラニーの
イラスト

これからも、トラニーが教えてくれたことを胸に、今までよりももっと動物と人に寄り添つた治療を続けていくことを思います。トラニー、今までありがとうございました。安らかに眠つてください。

(森のいぬねこ病院院長)